

環境省主催「COP29ジャパン・パビリオン」出展

「Net Zero CCS Solutions: RD&D of CO2 Ship Transportation and Geological Storage」
ネット・ゼロへのCCSソリューション～CO2船舶輸送及び地中貯留の技術開発・実証試験



出展期間：2024年11月11～22日
会場：アゼルバイジャン バクーオリンピックスタジアム

日本CCS調査株式会社
国際部

国連気候変動枠組条約第29回締約国会議 (COP29)の開催

国連気候変動枠組条約第29回締約国会議 (COP29) が、2024年11月11日 (月) ~22日 (金) にカスピ海に面するアゼルバイジャンの首都バクーで開催されました。COPは、気候変動枠組条約 (UNFCCC) の加盟国や締約国の各国首脳や交渉担当者等、地球上のほぼすべての国々が参加 (約200カ国) し、気候変動抑制のための協議を行う世界で唯一の多国間意思決定フォーラムです。COP29では、気候変動対策のための資金調達に関する新たな目標の確保等が優先的テーマとなり、アゼルバイジャン共和国環境・天然資源大臣ムフタール・パバエフ議長団のもと、様々な合意形成が行われました。



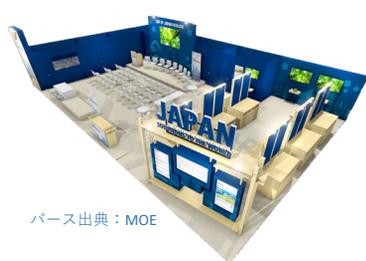
ブルーゾーン：会場周辺の駐車場も活用したUNFCCC が管理する会議・交渉スペースであり、COP 会期中に開催されるすべての公式会合、会議、サイドイベント、記者会見はブルーゾーンで行われます。ブルーゾーンへの入場者は、UNFCCC に認定された参加者 (締約国代表団、首脳、認可オブザーバー、認定プレス) のみとされています。

グリーンゾーン：一般市民や民間企業をはじめ、メディア関係者、ブルーゾーン展示団体など、多様なステークホルダーが交流できる場として、COP29議長国により運営され、気候変動対策のイノベーションや解決策などに関する議論やデモンストレーションのハブとして活用されています。

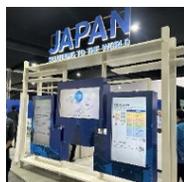
バクーオリンピックスタジアムと各ゾーン配置図。およそ65,000人が参加したとされています。

環境省主催「COP29ジャパン・パビリオン」の設置 ~Solution to the world~

日本政府として環境省は毎年、COPの公式の場となるブルーゾーンに「ジャパン・パビリオン」を設置し、日本が取り組む様々な温暖化対策に関する最新動向を世界に発信しています。COP29においても、「Solution to the world」をテーマに官公庁や民間企業によるセミナー・実地展覧が開かれ、パリ協定達成に向けた日本の温暖化対策に関する政策や最新技術等が世界に発信されました。



パース出典：MOE



(左) セミナー会場、出展エリアを含む全体イメージ (中央) 実際のパビリオンの様子 (右) 浅尾環境大臣とチームジャパン
パリ協定の目標達成のために極めて重要な取り組みとなる日本の優れた技術・製品・サービス等を効果的・魅力的に発信。

JCCS出展： ネット・ゼロへのCCSソリューション~CO2船舶輸送及び地中貯留の技術開発・実証試験~

COP24 (ポーランド)、COP25 (スペイン)、COP26 (英国) に続く4回目の参加となる当社は、「Net Zero CCS Solutions: RD&D of CO2 Ship Transportation and Geological Storage」と題し、「CO2船舶輸送に関する技術開発および実証試験事業」、および「苫小牧におけるCCUS大規模実証試験事業」の出展を行いました。



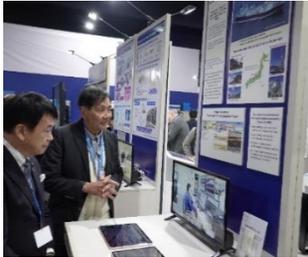
(左・右下) JCCS出展ブースおよび説明者



(右上) ジャパン・パビリオン入口で上映の当社企業プレゼンテーション

JCCS出展ブースに来訪の国内外の政府、研究機関、企業、NGO、メディア等の皆様

ブースには国内外の政府関係者企業、金融、大学・研究機関、メディア、NGO等がお越しになられ、当社より日本の気候変動への重要な対応策とされるCCSおよび関連技術の国際的プレゼンスの向上に向けて、苫小牧CCS事業の実証成果や船舶輸送事業の取組をご紹介します。11月11日から22日の延べ11日間にご対応をしたブース来訪者数は、政府閣僚、東京都知事を含め375名に上り、CCSの安全性やコスト、今後のビジネスモデルや国際協力に向けたご関心やご質問に、多数ご対応をいたしました。



清水はやとさいたま市長



小池百合子東京都知事



ヌサンバエフ・エルラン・カザフスタン
共和国エコロジー・天然資源大臣



国会議員団の皆様



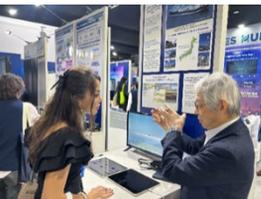
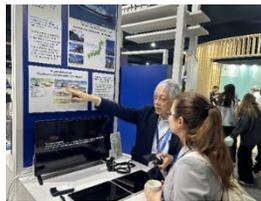
浅尾慶一郎環境大臣



後藤慎一国土交通省大臣官房審議官



政府交渉団やビジネス関係者に向けご説明をする様子



海外の政府交渉団や世界銀行、コンサルティング、研究機関等より多数の方がお越しください、日本の取組や自国における今後のCCSの可能性等に深く関心を示されました。

海外メディアへの取材対応、掲載実績

出展期間中には、当社ブースに来訪した海外メディアからの取材があり、一部のインタビューがアゼルバイジャン国内をはじめ、オンライン上で記事化されるなど、ジャパン・パビリオンや当社出展への関心の高さが窺われました。またCOP事務局がまとめたリール動画や、環境省のFacebookやXなどでもパビリオンや当社出展の様子が紹介されました。



アゼルバイジャン国営ニュース通信社取材対応の様子

海外メディア記事化の一例：

11/14 アゼルバイジャン国営ニュース通信社 「Japanese participant: COP29 is an excellent opportunity to exchange information and ideas – AZERTAC」

https://azertag.az/en/xeber/japanese_participant_cop29_is_an_excellent_opportunity_to_exchange_information_and_ideas-3281400

11/22 Trend News Agency 「COP for Hope: Hope that new technologies to help reduce global temperature hikes - Japanese participant」

<https://en.trend.az/business/green-economy/3974049.html>

海外パビリオン、CCS関連セミナー

日本パビリオン同様、会場ブルーゾーンには、国連パビリオンをはじめ、各国パビリオンが立ち並び、気候変動の啓発イベントや国際協力のためのセッション、ディスカッション等が繰り広げられていました。



United Nations



Azerbaijan



Turkey



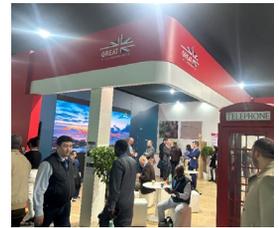
United Arab Emirates



United States of America



Canada



Great Britain (UK)



CARICOM (カリブ共同体)



Australia



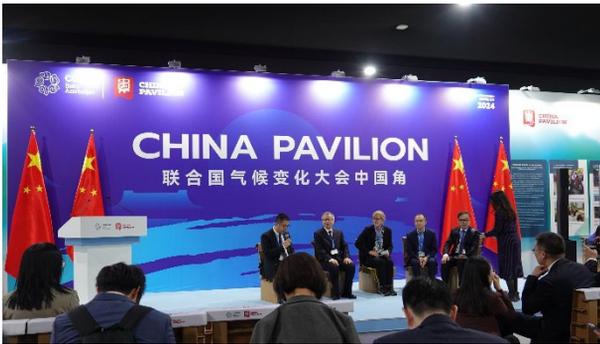
Singapore



Indonesia

CCS関連セミナー

COP29では、COP公式サイドイベントとしてのCCSセミナーなどがIEAGHG、グローバルCCSインスティテュート、テキサス大学等主催により開催され、気候変動に対処するためのCCSの重要性等が発信されました。中国パビリオンやCaricomパビリオンでのセミナーなども、多くの参加者のもと開催されました。



(左上) 11/18 中国パビリオン「The innovation and practices of CCUS in China」

(左下) 11/20 IEAGHG、テキサス大学、University of West Indies、University of Trinidad and Tobago共催「Carbon Capture and Storage in the Caribbean Region」

(右上、右下) 11/19テキサス大学オースティン校、IEAGHG、Bellona、CCSA、International CCS Knowledge Centre共催「UNFCCC Side-event: Is there any Climate Finance for Carbon Capture and Storage, Especially in Emerging Economies?」